

新春対談

【本郷社長プロフィール】



1966年5月1日生まれ。松原区出身。長洲小、長洲中、荒尾高校卒業後、東京のホテル専門学校へ進学。ホテルのボーイ、布団販売、情報機器販売の営業などを経て、1996年に（有）テレコムネットを設立。2004年、商号をスターティア株式会社に変更。2005年、東証マザーズ上場。2015年、東証一部上場。電子ブック作成ソフトを中心とした

Webアプリケーションや、企業の通信環境などをサポートするITインフラを提供。現在はアジアNo.1のサービス展開を目指し、その足がかりとして、上海および西安、台湾においてもサービスの開発・展開を進めている。2018年、商号をスターティアホールディングス株式会社に変更。9月には「一般社団法人熊本創生企業家ネットワーク」を設立。「熊本ヴォルターズ」や「ロアッソ熊本」とオフィシャルパートナー契約を締結。好きな言葉「努力できる事が才能である。夢は大空へ努力は足元へ」

【企業概要】（※2018年3月31日時点）

企業名	スターティアホールディングス株式会社
資本金	824,315千円
従業員数(連結)	589人
グループ企業数	15社
連結売上高	110億58百万円
連結経常利益	3億76百万円

ティアホールディングス株式会社
スターティア株式会社
スターティアラボ株式会社
スターティアレイブ株式会社
Mtan
Work



最先端を、人間らしく。

スターティアホールディングス株式会社
代表取締役社長 兼 最高経営責任者

中逸 博光町長 × 本郷 秀之さん

長洲町出身で、東証一部上場企業のスターティアホールディングス(株)を経営する本郷秀之さん。最先端のITインフラを提供し、15社のグループ企業を牽引するリーダーです。

今回、IT業界の第一線で活躍されている本郷さんと中逸町長が対談を行い、これからの時代やまちづくりについて語り合いました。

町長 本日はよろしくお願ひします。
本郷 こちらこそよろしくお願ひします。

時代の变化を捉えて成長
最先端のITインフラを提供

町長 日本のみならず海外へ向けでも活躍されていますが、スターティアホールディングスはどのような会社でしょうか。

本郷 市外電話や国際電話の取り次ぎを行う会社として1996年に創業しました。当時、NTTが民営化になり、通信事業が官から民へ流れていくことに大きなビジネスチャンスを感じたからです。そこからビジネス機器の販売、インターネットを中心としたサービスの提供など、時代に合わせて企業の通信環境をサポートするサービスを広げてきました。現在では、電子ブック作成ソフトなどのデジタルマーケティングの提供も行っています。
町長 時代に合わせた情報をキャッチし、IT分野の最先端を歩

んでこられたように思います。どのようなきっかけで起業されたのですか。

本郷 実は、もともと起業しようと思って起業したわけではないんです。長洲町で進学塾を開いていた父からは幼い頃から勉強しろと言われて育ちました。当時は勉強にあまり興味がなく、とにかく外の世界を見てみたいという気持ちが強かったです。高校卒業後に上京し、ホテルの専門学校で学びながら、実際にホテルのベルボーイとして働きました。ホテルマンになりたいというよりも、ホテルマンになったら海外で仕事ができると思ったからです。ですが、実際に働いているとちょっと厳しい世界に挑戦したいという思いが強くなり、布団の訪問販売の会社に入社して6年間営業の修行を積んだ後に、情報通信機器の販売会社に入りました。ところが、その会社が乱脈経営で倒産してしまいました、当時の部下たちと潰れない正しい会社を作ろうということで起業しました。

町長 起業されるにあたって数々の

泳ぎだしたり、スタンプラリーなどにも活用できます。

町長 行政においても、ITサービスを活用して住民サービスを向上させていく必要があると感じています。ITサービスを行政分野で活かすにはどのようなことが必要でしょうか。

本郷 ITを活用した最先端のサービスは、行政においても前例が少ないためまだまだ積極的ではない雰囲気を感じます。各自治体のリーダーの資質やITに対する先見の明があるかによって、今後の地方創生やまちづくりにおいて、明暗を分けるのではないかと考えています。

田舎でしか経験できないことがたくさんある

町長 ふるさとである長洲町について、想い出はありますか。

本郷 魚釣りの餌やカブトムシを自分で獲ったりして、お店に売りに行ったりしていましたね。いま思えば、田舎だからこそ、なんとか自分で小遣いを稼ごうという知恵がいま



ご苦労もあつたかと思いますが、いかがですか。

本郷 まずは信用がないことで苦労しました。銀行は3年間の経営実績がないとなかなかお金を貸してくれませんので。お金もなく、信用もなく、社員もいませんでしたので、以前勤めていた会社の部下を誘ってりして自転車操業のようなスタートでした。

町長 そのような中で東証一部上場の一流企業へと育て上げられました。そこにも多くの苦労があられたんでしょうね。

本郷 ただ、苦労とはあんまり思わなかったですね。会社を経営するのはこういうものかなと。自分がやりたくて立ち上げた会社ですし、自分の選んだ道ですから。いま振り返っ

てみても苦労というのはあまりないかもしれないですね。

AR(拡張現実)は汎用ARアプリ国内最大級

町長 さまざまな新しい分野に挑戦されてますが、御社の主力商品についてお聞かせいただけますか。

本郷 従来からのサービスはもちろんですが、近年ではアジアへの投資、アプリやコンテンツなど未来のITサービスへの投資に力を入れています。デジタルマーケティングとも言いますが、インターネットを通して企業の売上を伸ばすお手伝いができるようなサービスです。弊社では電子ブック制作ソフトやCOCOAR2(ココアルツ)と



育」から「自ら学ぶ教育」に力を入れていくべきだと思います。中学からでも我々のような起業家を講師に呼んで講演を開くべきだと思います。思い切ってITやプログラミンなどの教育も始めていくと子どもたちの興味や世界観が大きく広がると思います。

大切なのは自分で考え、自分の発想を大事にすること

町長 最後に長洲町の若者に一言お願いします。

本郷 良い意味で外から長洲町を見て、見識を広げていくことが大事だと思います。見識を広げれば広がるほど、町への愛着が湧いてくると思います。長洲町は電子母子手帳アプリの導入や福岡大学との干潟環境改善に向けた研究など先進的な取り組みをされている素晴らしい町です。また、英語教育も大変熱心に取り組んでいます。このような教育に加えて、これからの時代に必要なのは、自分の頭で考え、自分の発想で新しいものを生み出していく力だ

いうARアプリのほか、今後人口がさらに減少して労働力が不足する時代に、WEBを使って企業の売り上げを伸ばすようなサービスがこれからの主力になっていきます。ARは拡張現実と呼ばれていますが、実在する風景にバーチャルの視覚情報を重ねて表示することで、目の前にある世界を仮想的に拡張するものです。

町長 AR(拡張現実)などは長洲町においてどのように活用できますか。

本郷 日本には食べ物や文化、催し物など、素晴らしいものがたくさんあります。これをどう発信していくかを考えていく必要があります。弊社のAR(拡張現実)は、ポスターや看板をスマートフォンカメラでかざすことで写真が動き出したり、画面上にご当地キャラクターを出現したりさせることができます。イベントや観光客を増やすツールとして大いに活用できると思います。

町長 金魚のPRにも良いかもしれませんね。

本郷 そうですね。例えば金魚が

と思います。そういう意味でもいろんなことに目を向けてほしいなと思っています。

町長 町の教育に関しても何らかの形でご協力いただければと思います。本日はありがとうございました。今後のご活躍を長洲町から応援しています。

